

# 形成外科

吉龍澄子

1999年7月に大阪医療センター皮膚科内に形成外科の常勤医1名が赴任してスタートし、2000年4月1日より診療科として形成外科を標榜しました。2007年4月より外科の中で診療を行ってききましたが、2009年7月より形成外科は外科から独立した診療科となりました。

当院は形成外科学会の教育関連施設に認定され、形成外科専門医取得のための卒後教育にも当たっています。

当科は、自科で行う診療および複数の科とのチーム医療における再建外科を2本の柱として行ってきました。院内での腫瘍外科手術の増加に伴い、チーム医療における再建外科としての比率がやや高くなっています。

自科としての診療では、主に顔面、頭頸部の皮膚悪性腫瘍、眼瞼形成術、皮膚腫瘍、ケロイド、瘢痕拘縮などの皮膚外科手術、顔面神経麻痺の形成手術を扱っています。

顔面の腫瘍の中でも特に眼瞼の腫瘍は、腫瘍の治療という点からだけでなく、眼瞼の機能、および整容的にも満足のいく治療を行うのが重要と考えて治療方針を決め、術式も工夫を行っています。眼瞼癌について放射線科、眼科の協力のもとに、手術だけでなく照射療法なども選択枝に入れて、十分な説明の上、患者様の希望も考慮して治療方針を決定しています。また眼球近くの悪性新生物でも、できるだけぎりぎりまで眼球温存するよう努めています。腫瘍以外では、眼瞼下垂や睫毛内反症、眼瞼外反などの眼瞼の変形や機能障害について、整容面に配慮した眼瞼形成手術をほぼ毎週数例以上行っています。

顔面の皮膚癌について、四肢の腫瘍や乳癌でおこなわれているセンチネルリンパ節検査の導入を試み、その皮膚癌に適したリンパ節郭清を行う方針を採っています。当科では皮膚腫瘍はできるだけ整容的にそして侵襲を少なく治療するために、植皮方法や皮弁の切開線の工夫を行ってきました。また完全切除をするまでに、腫瘍切除後一旦人工真皮で被覆し、病理標本で完全切除を確認後に再建しています。その他、治療困難な真性のケロイドに対して、切除後の放射線照射療法を含む治療に取り組んでいます。当科は、全国で唯一ケロイドに対して組織内照射を行っていますので、症例や部位に応じて、切除後放射線外照射あるいは組織内照射を使い分けて治療しています。ケロイドの他にも術後の創部の瘢痕拘縮の修正術も行っています。

もう1つの診療の柱として当科では、院内の外科系各科の癌の切除後の再建に取りくんできました。頭頸部再建、乳癌再建が主なものですが、その他、四肢、体幹の再建も増加しています。頭頸部再建症例は形成外科開設以来180例を超え、大部分がマイクロサージェリーによる遊離皮弁の症例です。外科、耳鼻科、口腔外科、形成外科、放射線科、脳外科などによるチーム医療体制が良好なため、安定した再建成績を維持できており、そのため現在まで再建皮弁の壊死などの大きな合併症は1例も起こっていません。

乳房再建は、自家組織の皮弁による再建を行ってきました。2013年4月よりシリコンインプラントによる乳房再建も保険適応が一部の形で認められたため、乳房再建の選択肢が増えると考えます。今後も悪性腫瘍、顔面の形成、再建外科、皮膚外科を中心に診療する方針です。

【2012 年度研究発表業績】

A-0

Tomoko Shofuda<sup>1</sup>, Daisuke Kanematsu<sup>2</sup>, Hayato Fukusumi<sup>2</sup>, Atsuyo Yamamoto<sup>1</sup>, Yohei Bamba<sup>10</sup>, Sumiko Yoshitatsu<sup>5</sup>, Hiroshi Suemizu<sup>6</sup>, Masato Nakamura<sup>6,7</sup>, Yoshikazu Sugimoto<sup>8</sup>, Miho Kusuda Furue<sup>9</sup>, Arihiro Kohara<sup>10</sup>, Wado Akamatsu<sup>11</sup>, Yohei Okada<sup>11</sup>, Hideyuki Okano<sup>11</sup>, Mami Yamasaki<sup>3,4,13</sup>, and Yonehiro Kanemura<sup>2,4</sup> : Human Decidua-Derived Mesenchymal Cells are a Promising Source for the Generation and Cell Banking of Human Induced Pluripotent Stem Cells. *Cell Medicin*l. 4: 125–147, 2013

A-3

吉龍澄子、吉田 謙 : 癬痕・ケロイドに対する治療 ～我々の放射線治療の使いわけ～。創傷 3(2): 72–81, 2012

B-2

Yoshitatsu S, Kanemura Y, Kanematsu D, Shoufuda T, Yamamoto A. : Differentiation potential of the human dermal fibroblasts(hDFBs). 4th Congress of the World Union of Wounf Healing Societies (September 2nd ~6th, 2012, Yokohama, JAPAN)

B-3

吉龍澄子 : 教育コース unfavorable results ～ 眼瞼再建における pitfall ～。第 28 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2012 年 6 月 29 日 (金) ～30 日 (土) (札幌)

吉龍澄子 : 皮膚腫瘍外科指導専門医 第 5 回教育セミナー。乳房外 Paget 病。第 21 回日本形成外科学会基礎学術集会 2012 年 10 月 4～5 日 (福島県猪苗代)

吉龍澄子、吉田 謙、森本 萌恵 金澤 成行、細川 互 林 和彦、吉岡靖夫 : ケロイドにおける放射線療法。シンポジウム 3 ～ケロイドにおける電子線療法の有用性と適応～ 第 4 回日本創傷外科学会 2012 年 7 月 26 日 (木) ～27 日 (金) (久留米)

B-4

吉龍澄子、岡村玲子 : 口腔内再建における前腕皮弁の工夫 (第 2 報) ～橈骨動脈穿通枝により栄養される脂肪弁。第 55 回日本形成外科学会総会・学術集会 2012 年 4 月 11 日 (水) ～13 日 (金) (東京都千代田区)

吉龍澄子、有家 巧、林 伊吹 : 口腔内癌再建における前腕皮弁の工夫。第 36 回日本頭頸部癌学会 2012 年 6 月 7 日～8 日 (島根県松江市)

永竿智久、服部典子、岡部圭介、金子剛、彦坂信、吉龍澄子、貴志和生 : ケロイドならびに癬痕組織周辺に発生する応力を解析する、新しいモデリングシステムの開発。第 21 回日本形成外科学会基礎学術集会 2012 年 10 月日 (木) ~日 (金) (福島)

吉龍澄子、森本萌恵、藤原貴史：高齢者の遊離皮弁による頭頸部再建症例の検討。第 39 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 2012 年 12 月 6 日（木）～7 日（金）（北九州市小倉）

植松聡\*<sup>1</sup>、三浦聡子\*<sup>1</sup>、建林美佐子\*<sup>1</sup>、數尾久美子\*<sup>1</sup>、大鳥安正\*<sup>1</sup>、吉龍澄子\*<sup>2</sup>、是恒之宏\*：  
球後麻酔による球後出血により著明な視力障害をきたした抗凝固療法患者の一例。第 36 回日本眼科手術学会総会。2013 年 1 月 25 日（金曜日）～27 日（日曜日）（福岡）

#### B-5

吉龍澄子：下顎再建プレート露出の治療（パネル）。第 17 回南大阪 FLap 研究会。2013 年 2 月 13 日（水）（大阪市）

#### B-6

森本萌恵、吉龍澄子、岡村玲子、大崎陽子：大腿皮下に発生した solitary fibrous tumor の 1 例。第 101 回日本形成外科学会関西支部学術集会（大阪）

森本萌恵、吉龍澄子：神経線維腫症 I に合併した悪性末梢神経鞘腫瘍の 1 例。第 103 回関西形成外科学会学術集会。2013 年 3 月 9 日（土）（大阪市）